

六月二日午前七時、印度ラダックはレーの町に空路到着。首都デリーより一時間半北方なり。デリー出發時の気温は早朝と云へども攝氏三十度以下には収まらず、されど此處レーは十度に満たず。三千米の高度一舉に昇りたり。

空港の雪隠使はむとて行列に並ぶ。牀に揺れを感じず。

「地震なりや？」

と云ふに、前後に居並ぶ知人達、何故か不審なる眼を以て小生を見ぬ。地震には非ず、小生のみ認識に過ぎざりけり。

斯くも高度を一舉に上昇したれば、高山病の第一段階を経験せしものなり。出立前デリーにて高山病の薬服用したれども、此の有様なり。今日の所は一日大人しく高地順應すべし。

今回の旅行目的は、ラダックの西藏佛教僧院にて倍音聲明を行ふことなり。倍音聲明とは、「ウー」、「オー」、「アー」、「エー」、「イー」と、母音を順に發聲する瞑想法なり。上ラダックのタクトクゴンパは、倍音聲明發祥の地とぞ聞く。

翌朝、高山病は既に治りぬ。狭き道を通せんが爲、小型車八臺を連ねて出發。ヘミスゴンパを皮切りに、四つのゴンパにて倍音聲明行へり。皆の調子尻上りに高揚、いよいよタクトクゴンパに到着。此處には洞窟有り。彼のパドマ・サンバヴァの瞑想したる場所なり。

此の洞窟にて小生も或る氣配を感じぬ。聞けば百二十年前の人物某現れ、皆清められきとの事なり。

翌日は下ラダックのゴンパにて倍音聲明行ふ。此の地は少年僧多く、西藏佛教の活きて在ること實感す。

明けて翌日、再度タクトクゴンパを訪れぬ。此處が最後の訪問地なり。前回より餘程長時間倍音聲明行へり。されど實感としては短く感じぬ。

小生の感ぜし事。右前方に白き光。其の後トランペットの音幾度も聞く。般若心經、經典の言葉まで聞こゆ。

成瀬雅春師、若干浮揚せられきとの事なり。